

Q1

・5才の子どもが食事をした時に、口の周りが赤く腫れる事があります。食べた食品を避ける事はできますが、もし症状が出てしまった時はどのような対応をすれば良いでしょうか。口の周りをふき取る以外にできる事がありますか。

A1

・口の周りをふき取ることと、うがいができるようならうがいをしていただくとよいと思います。  
ただ、赤くはれるようであれば速やかに医療機関に受診する必要があると思います。

Q2

・幼児でトマトや果物を食べると一時的に口の周りだけ赤くなるのはアレルギーなのでしょうか。口の周り以外の症状はありません。

・花粉症（アレルギー性鼻炎）で医師に牛乳を止める様に言われた4才児がいます。どのような関連性があるのでしょうか。

A2

・口の周りにトマトがついて赤くなるのは食物アレルギーではなく接触皮膚炎かと思います。

口の周りにつかなくても赤くなるようなら食物アレルギーと考えてよいと思います。

・スギ花粉症のかたがトマトアレルギーになることがあります。それは比較的大きい（小学生以降）のお子さんと起こりやすいです。スギの花粉の蛋白質とトマトの蛋白質が似ているためです。

## Q3

・子供は小麦、卵、乳その他諸々アレルギーを持っています。血液検査でミルク・クラス1 ガセイン・クラス0 ラクトグラブリン・クラス0にもかかわらず、牛乳の負荷試験では10ccで口元に発疹ができ負荷試験失敗。小麦に関しては、小麦・クラス2 グルテン・クラス2 グリアジン・クラス0で、うどん負荷試験では10gで口元に発疹で負荷試験失敗。卵は、卵半量で作った茶碗蒸しを食べたら、くしゃみ鼻水が出る。唯一発疹がでないのでゆで卵を毎日ひとかけら食べさせている。イワシのだしで作った味噌汁を食べたら、下痢症状がでたので青魚も食べていない。食べ物により反応が異なるので、えびやたこ等も試してみたいが、小麦・牛乳を克服できない限り怖くて食べさせることができない。好き嫌いと割り切り食べさせなくてもよいものか、少量でも試した方がよいのでしょうか。

## A3

・血液検査とは特異的IgEのことかと思いますが、これが高いとアレルギーの確率が上昇するということであり、0であっても可能性はあります。逆に数字が高くてもアレルギーでない場合もあります。

・摂取の仕方はですが、アレルギーを克服するためにどのように食べていくのがよいか相談してください。

Q4

・1才児食物アレルギーを持っている場合、治療法があるのか知りたいです。

A4

・食物アレルギーの種類によって異なります。まずは診断をして、それに合った治療法を行ってください。多くの種類の食物アレルギーでは治療法はあります。

## Q5

・ 12才の息子が食物アレルギーです。生後4か月の時にミルクでアナフィラキシーショックを起こし、今での牛乳、卵、小麦に強いアレルギーがあります。牛乳だと10cc、卵は固ゆでで1/2個、小麦は冷凍うどん15gの量で家で食べてギリギリ症状がでないという感じです。病院で1~2年に1度くらい負荷試験を受けています。家で少し量を増やすと症状がでることがあるので怖くてなかなか増やせません。3種類もあるので、1日1種類を平日は夜しか試せていないので進みが悪いのかもしれないです。

・ 食物アレルギーは成長と共によくなると言われていますが、うちの子は12才になっても治らないので心配です。最近友達と行動する事も増えていて、外での食事でも心配です。

A5

- ・症状が出るようであれば、現在食べられる量を摂取して、増量については医師とよく相談ください。
- ・食物アレルギーは必ずしも改善するとは限りません。医師と相談の上、治療法をよくご検討ください。

## Q6

・私自身、花粉症を持っており、またガスター系にてアレルギーで湿疹をおこした事があります。蜂に刺され失神し、注射を打ったことが1度あり2度目が心配です。

・仕事にて昨今アレルギー（食物や動物など）を持っている園児が増えてきているので対応策があったら教えて欲しい。

## A6

- ・蜂刺されによる意識低下の経験がある方については、蜂に刺されないように気をつけることは言うまでもなく、アドレナリン自己注射薬を携行したほうがよいと思いますので、かかりつけ医にご相談なさってください。
- ・教育現場においては、保護者・医師・教職員との間で緻密な連携をとること、それらの情報（各児童のアレルギー状況と対応策）を教職員間で共有すること、全職員がアレルギー対応に関する知識を常にアップデート（定期的な研修などで）することが重要です。「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン（2019年改訂）」（厚生労働省）、「学校のアレルギー疾患に対する取り組みガイドライン（令和元年度改訂）（日本学校保健会）」、つくば市学校給食食物アレルギー対応マニュアル（つくば市）などを参考になさるとよいと思います。

Q7

・保育園でできるアレルギー児への対応策を知りたい。  
食事中～食後、机をわける、部屋を別にする、小麦アレルギー児と粘土遊びなどの具体的に教えて頂きたいです。

A7

・基本的には「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」を参考にしてください。具体的な問題に知いては個別に相談する必要があると思います。園医とご相談ください。

## Q8

・私は口の中、特に舌の左側が食べた物によってイガイガしたり、ヒリヒリしたりします。舌先が赤くなったり、舌の表面が茶色になったりします。最初に症状がでたのは、2019年7月です。バナナ1本と冷凍のお好み焼きを食べた後に舌の左奥がイガイガしました。その時は2時間程で治まりました。2日後に、チーズと雑穀入りのパンを食べてからは、食後にイガイガするようになりました。果実は殆どダメです。灰汁のある野菜も食べていません。アレルギーの検査をしても何も出ません。原因や対処法が知りたく、色々な病院に行き、口腔アレルギー、舌痛症、口腔内異常感傷などと言われました。しかし、どの病院でもアレルギーではないので、食べられるものだけを食べていればと言われました。現在、食べている物は、白菜、キャベツ、もやし、キノコ全般、白身魚、卵、豆腐、鶏肉で、豚肉は2回湯がいてからたまに食べます。ごはん、パン、うどんは大丈夫です。体重は1年間で6キロ減となりました。原因や対処方法が知りたいです。

## A8

・いつも症状が舌の左側に限局しているのだとすれば、舌自体、あるいは三叉神経や舌咽神経などに由来する可能性があります。一方で、症状が舌の左側に固定せず、むしろ同じ食材で繰り返し生じるのであれば、たとえ採血やパッチテストで陽性でなくても、食物関連のアレルギーの可能性は否定できません。また、食事以外でも症状が生じるようであれば、カビや微量金属・ビタミンなどの不足の可能性も考えられます。対処方法は原因によってさまざまですので、一つずつ原因を除外しながら対応を考えていくことになります。

・体重が1年で6 kg減ったとのことですが、アレルギー疾患の可能性にこだわらず、体重減少の原因についても一度総合的に診ていただくことをお勧めします。

Q9

・アレルギー疾患生活管理指導表の「除去食品においてより厳しい除去が必要なもの」の項目に○がついた場合、該当する食品を使用した料理については、給食の対応が困難となる場合がある旨が書かれていますが、これは具体的にどういう意味なのでしょう？例えば、卵殻カルシウムに○がついている場合は、卵殻カルシウム入りのお菓子の対応だけではなく、卵除去の対応も園では行わず、弁当持参などの対応を行った方がいいのでしょうか。除去の必要がないことが多いものまで反応してしまうほどアレルギー症状が強いため、大量調理の現場で安全に対応するのが困難という意味にとってしまっているのでしょうか。

A9

・決して、給食対応ができないという意味ではありません。個別に対応が可能か検討する必要があるため、医師と相談してもらう必要があります。また、項目によっても対応がことなります。一概に考えるのは避けたほうがよいと思います。

Q

10

・アレルギー疾患生活指導表で食物・食材を扱う活動の「2原因食材を教材とする活動の制限」と「3調理活動の制限」はどのような違いがあるのでしょうか。また、ここに○がある場合は、乳アレルギーの子の牛乳パックの使用は制限した方がよいのでしょうか。

A

10

・原因食材を教材とする活動は小麦粘土や牛乳パックなどを想定、調理活動は調理活動を想定していると考えてください。個別に保護者と相談する必要があると思います。詳しくは「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」をご参考ください。